

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372500696
法人名	グループホーム郷有限会社
事業所名	グループホーム郷有限会社 たんぽぽ
訪問調査日	平成 19 年 11 月 20 日
評価確定日	平成 19 年 12 月 18 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日平成19年 12月6日

【評価実施概要】

事業所番号	4372500696		
法人名	グループホーム郷有限会社		
事業所名	グループホーム郷有限会社 たんぼぼ		
所在地 (電話番号)	熊本県鹿本郡植木町大字宮原177 (電話)096-275-3080		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成19年11月20日	評価確定日	12月18日

【情報提供票より】(19年10月15日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 3 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 9 人, 非常勤 3 人, 常勤換算	9.9

(2)建物概要

建物形態	併設	新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建て	1階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39 円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		700 円

(4)利用者の概要(10月15日現在)

利用者人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	2名	要介護2	1名		
要介護3	4名	要介護4	1名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 87歳	最低 79歳	最高	95歳	

(5)協力医療機関

協力医療機関名	箱根崎医科歯科クリニック 植木シルバークリニック
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地元出身である管理者は長年に渡る福祉施設での経験をホーム運営に最大限に生かし、行政や地域との連携に力を注いでいる。デイサービスと棟を一つにするホームは利用者同士の自由な行き来や入居者がデイサービスに参加したり、外出を共にする等交流を支援している。職員に対する家族からの信頼も厚く、職員間の良いチームワークのもと、入居者本位のケアを実践している。念願であるホームの増設が早期実現することを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	昨年度の評価を受け、入居者がゆっくり寛げるスペースの確保を優先課題とし、リビング横に和室を増設している。又入浴も午前・午後と入居者本位となるよう支援している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が職員に聞き取りを行い、意見を聞きながら取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の回数については、家族より「もう少し少なくしてほしい」との要望もあるなど、開催日の設定に難しい面もみられた。内容については毎回充実した運営がなされている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族からの苦情はほとんど無く、意見や相談について管理者や職員はいつでも応じている。また寄せられた意見については、早急に対応し説明を行っている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地区の敬老会に参加したり、区費を納めたり、奉仕活動に職員が参加することで、地域の中の一員としての意識を持って生活を支えている。また有事の際の地元消防団との協力体制も確立している。

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者の人権を尊重し、日々信頼関係を築きながら共に楽しく過ごすことを理念に掲げ、地域に認められ溶け込むことを最大の目標としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は常日頃職員に対し理念に基づいてケアに当たるよう話し、職員も言葉一つ一つを心に置き入居者に接している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の敬老会へ1名の入居者が参加したり、奉仕活動に職員が出たり、地域での活動を支援している。又、有事の際の協力体制として地域の消防団との連携を図っている。散歩中近隣住民と挨拶を交わしたり、夏祭りに地域や老人会の方の参加もある。野菜の差し入れや果物の収穫に誘われるなど交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者や職員は評価の意義を十分認識し、改善点については早期の対応が取られている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	土・日を希望される家族と平日をとと言われる行政との日程の調節が困難で回数的には2ヶ月に1度の開催とはなっていない。毎回多数の出席があり、出席者にこのホームの存在と認知症への理解が得られている。運営推進会議後入居者を交え食事会を開き、相互の交流も図っている。	○	日程の調節や家族への呼びかけ等困難な面もあると思われるが、運営推進会議の意義を理解して頂き、今後も充実した会議が開かれる事を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政からの運営推進会議への出席や月1回は管理者が役場を訪れ、行政担当者も協力的で、より良い関係が保たれている。ホームの増設も申請中であり早期実現に期待する。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年2回発行の“たんぼぼ便り”で日常生活の様子を伝えている。又、個々の状況については面会時に報告を行い、特変時にはその都度電話にて報告している。金銭管理を行なっている入居者については収支報告と共に領収書を送付している。職員の異動、運営推進会議で報告を行い安心を保っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの病院受診の要望にも家族対応の1名の方を除き全員に応じている。かねてからの願いであった和室の増床にも着手し入居者の生活に安らげる空間を提供している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職については、運営推進会議にて報告を行い、今回2名の産休者に対しても早急に職員を採用しているが、離職する職員も無く、入居者に不安を与えないよう配慮をしている。管理者自ら、離職による入居者への弊害を認識し、希望休、時間外労働、昇給について出来る限りの努力をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月末の全体会議には極力職員の参加の多い日を選び、入居者の処遇やプランの検討を行なっている。実務者研修や地区のブロック会議にも毎回参加し、会場提供も行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地区のブロック会議に参加した後も参加した職員同士が交流の輪を広げるなど横の関係作りが築かれている。職員は休みを利用しながら外部研修に参加し、ホーム側も積極的に支援している。管理者も年に1～2回町のケアマネ研修会に参加し同業者との交流を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設のデイサービスを利用後の入居を進めており、スムーズに入居に至っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は本人ができる事を見守り、不足の部分を支援している。入居者の得意としている料理の下ごしらえや畑仕事など時には長年培われた知恵を借りながら同じ思いを共有し対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者が意見を遠慮なく言える関係が構築されており、入居者の要望があると食べたいおやつをすぐに手作りする等本人本位に支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	面会時を家族の要望を聞く機会としている。本人の希望をプランに反映させるべく職員との日常の会話の中で吸い上げる努力をしている。プランについては家族に説明の上了承を得ているが、出来上がったプランについて熱心に目を通される家族もおられるということであった。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	自立支援・人権尊重に基づきスタッフの日ごろの観察・見守りの中で僅かな心身の変化も見逃す事無く、本人・家族・必要な関係者と相談して現状のニーズに最適な見直しの計画を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族のニーズに応じて、外泊や併設のデイサービスの利用や送迎等も提供して、地域社会での生活の継続の支援に柔軟に対応されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族のかかりつけ医には健康管理のための定期健診や僅かの心身の変化にも早期受診の支援をしている。 又、認知症に知識の深い専門医を確保して適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化・終末期の場合、事前に家族に説明、同意を頂く取り組みの指針体制が出来ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	理念である人権尊重に則り、丁寧語で接する事、守秘義務に徹した対応がなされている。視覚・聴覚の低下している入居者の方へのケアサービスは特にプライバシーの確保に留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの介護計画書のアセスメントに基づき、傾聴・共感の姿勢を守り、現在の生活の継続を支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者栽培の旬の野菜、買物、献立、食事作り、後片付け等入居者の能力、希望を生かして参画され、職員と共に楽しく行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者本位の週3回、午前・午後の入浴体制がとられている。全員見守りと介助支援の入浴で事故予防に細心の配慮が払われている。更衣室には暖房器を設置し、温度差への配慮もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	したい事、できる事への参加を職員がお膳立てをし、現在は自ら全員が自分の役割を持ち、楽しみ・自信の回復の支援となっている。餅つき、春秋の桜・コスモスの花見、夏秋のタンポポ祭りへの参加支援も楽しみ事、気晴らしの行事になっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝夕の散歩、買物、ドライブ等の外出の支援が行われ、生活にメリハリをつけている。ワゴン車により、計画的な外出や季節に応じた支援をしている。	○	閉じこもりがちな入居者も更に庭先等へ出られるよう、声かけの方法等検討されることを期待する。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間の鍵かけは入居者のストレスを考慮してドアの開閉は自由に出来るよう配慮している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の消防訓練の実施、火災報知機が部屋に備えられ、地元消防団、警察、協力医療機関との災害時の協力依頼等を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病、高血圧症の入居者はいるが、いずれも医師から制限食の指示のあるような人はいない。その人によって摂取量のカロリーを調整している。全員の摂取量のチェックを毎食しており水分の把握もできている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	グループホーム全体が木造作りの家庭的な建物である。昨年からの計画であった共用の畳の間が完成して日当たりや風通しも良く食後には数人の入居者が昼寝をしておられた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた箆笥、鏡台、時計、置物等が持ち込まれ、照明も間接照明でまぶしくなく、居心地の良い自分の家庭にいる雰囲気を出している。		